

平成27年度入学試験問題（推薦入試Ⅱ）

小論文

法文学部 国際言語文化学科 英語文化専攻(昼間主コース)

注意事項

1. 受験番号を解答用紙の所定の欄に記入すること。
2. 解答は、必ず解答用紙に記入すること。
3. 解答用紙の他に、下書き用紙を配付するので、取り違えないよう注意すること。
4. 解答時間は、120分である。
5. 横書き、鉛筆（シャープペンシルを含む）書きにすること。

問 題

英語が話されている国と言えばイギリスやアメリカである，という限定的な見方がなされる時代は過ぎ去り，今日英語は，最も広く使われる世界共通語となった。また，複数の言語でのコミュニケーションを前提としたヨーロッパ連合（EU），多くのスペイン語話者を抱えるアメリカ合衆国，家庭語としての母語を持ちつつ公教育やビジネスは英語で行なわれるインドやシンガポールなど，2つ以上の言語を使用できることが世界の標準になりつつある。

そのような状況の中で，母語に加え，それ以外の言語を使うことができる意義について，あなたの考えを 1000 字以上，1200 字以内の日本語で論じなさい。

平成27年度入学試験問題（推薦入試Ⅱ）

小論文

法文学部 国際言語文化学科 英語文化専攻(昼間主コース)

出題の意図

国際言語文化学科英語文化専攻は、アドミッションポリシーとして、英語を中心とする言語、文学、文化、歴史に強い関心と学習意欲を有し、異なる文化と自己の文化に対する多面的な理解と、あらゆる物事を地球的視野で考える力の獲得へ向けて、主体的・積極的な学習ができる人材を求めている。したがって、この小論文は受験生が、国際社会の動向に意識を向け、国内外で起こっていることに対し、その根底にある文化的・社会的・歴史的背景を踏まえ、幅広い視野と見識で自分なりの解釈ができるか、また、提示された問題を議論する論理力・表現力を有しているかどうかを見ようとするものである。